



- 38 国内通信市場とKDDI
- 42 2016年3月期のセグメント別業績ハイライト
  - 44 パーソナルセグメント
  - 46 バリューセグメント
  - 47 ビジネスセグメント
  - グローバルセグメント
- 48 2016年3月期の連結業績報告・分析
- 51 2016年3月期のセグメント別業績報告・分析
- 54 連結財務諸表
- 60 市場データ
- 62 会社概要／株式の状況

# 国内通信市場とKDDI

## 国内通信市場の特徴

### モバイル

2016年3月末の日本の携帯電話累計契約数は、前期末比4.3%増の1億5,648万契約\*1となりました。

フィーチャーフォンからスマートフォンへの移行や、一人のユーザーが複数のデバイスを利用する「マルチデバイス化」が進むことで、モバイル市場は引き続き拡大を続けています。

また、ネットワーク・端末の進化による快適なモバイル利用環境の整備に伴い、モバイルコンテンツおよびモバイルコマース市場の規模も拡大している中で、通信事業者は新たな収益源として、通信以外のサービスへ事業領域を拡大しつつあります。

一方、日本のモバイル市場における環境変化としては、電波の割り当てを受けた通信事業者(MNO)からネットワークを調達してモバイルサービスを提供するMVNO\*2の新規参入が活発化しています。2016年3月末のMVNOサービス契約数は、前期末比32.5%増の1,269万契約\*1となり、モバイル通信市場に占めるシェアは7.8%まで拡大しています。総務省が2014年10月に発表した「モバイル創生プラン」の中で掲げられている「2016年中約1,500万契約」の目標に向けて、今後も拡大が見込まれます。

\*1 出典：総務省 電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データの公表(平成27年度第4四半期(3月末))

\*2 仮想移動体通信事業者(Mobile Virtual Network Operator)

#### >> モバイルコンテンツおよびモバイルコマース市場規模の推移



#### >> MVNOの契約数・市場シェアの推移\*1, 3



### 固定ブロードバンド

全国総世帯数に占めるFTTH世帯カバー率は9割超、CATVのホームパス\*4も7割超に達しており、日本の高速ブロードバンド利用環境はほぼ整備されています。

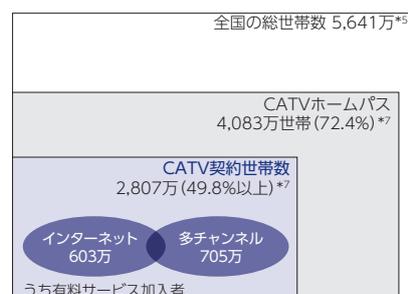
2016年3月末の固定ブロードバンドサービス契約数は、前期末比2.8%増の3,781万契約\*1となりました。

固定ブロードバンドサービスの普及率がすでに約7割に達している状況ではあるものの、2015年3月から開始したNTT東西の光アクセス回線卸売を利用する新規事業者参入や、モバイル各社による固定とモバイルのセット割引サービス販売が進む中で、市場は緩やかに拡大を続けています。

#### >> FTTH普及状況



#### >> CATV普及状況



#### >> 固定ブロードバンド普及状況の推移\*1



\*4 ケーブルテレビの施設設置許可地域内で、伝送路の施設が完了しているエリア内の世帯数

\*5 出典：総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(平成27年1月1日現在)

\*6 出典：インフォメーションNTT東日本2015：経営全般：電気通信設備状況：アクセス網の光化。2016年3月末の東日本電信電話株式会社(NTT東日本)のFTTH世帯カバー率は95%、西日本電信電話株式会社(NTT西日本)は93%(推定)

\*7 放送ジャーナル 2015年12月号(2015年9月末現在)

## モバイルトラフィックの増加

スマートフォンやタブレット端末の普及、端末の性能向上、通信技術の進化に伴い、日本のモバイルトラフィック量は急増しており、月間平均トラフィックは直近1年で約1.4倍に増加しています。

特に、モバイル利用の最繁時の平均トラフィックは、月間平均に対し約1.5倍の水準となっており、モバイル通信各社にとって、増加するモバイルトラフィックを効率的に収容し、設備投資を抑制しつつ、ネットワークを安定的に稼働させることが重要な課題となっています。

### 国内のモバイル月間総トラフィックの推移



○ 月間平均トラフィック ○ 最繁時トラフィック  
出典：総務省「我が国の移動通信トラフィックの現状」(当該資料(平成28年3月分)より)

## 国内のモバイル通信事業者への周波数の割り当て状況

周波数	技術	KDDIグループ <i>au</i> + <i>UQ</i> WiMAX	NTTドコモ	ソフトバンクグループ*8
3.5GHz (Band 42)	TD-LTE	40MHz	40MHz	40MHz
2.6GHz (Band 41)	TD-LTE WiMAX	50MHz*9		30MHz*10 ワイヤレスシティ プランニング
2.1GHz (Band 1)	FD-LTE	20MHz × 2	20MHz × 2	20MHz × 2
1.7GHz (Band 3)	FD-LTE		20MHz*11 × 2	15MHz × 2
1.5GHz (Band 11)	FD-LTE	10MHz × 2	15MHz × 2	10MHz × 2
900MHz (Band 8)	FD-LTE			15MHz × 2
800MHz (Band 18/19/26)	FD-LTE	15MHz × 2	15MHz × 2	
700MHz (Band 28)	FD-LTE	10MHz × 2	10MHz × 2	10MHz × 2
<b>周波数合計</b>		<b>200MHz</b>	<b>200MHz</b>	<b>210MHz</b>

(2016年3月31日現在)

\*8 ソフトバンクモバイル+ワイヤレスシティプランニング

\*9 現在、40MHz分はWiMAX 2+ (TD-LTE) で利用、10MHz分はWiMAXで利用

\*10 TD-LTE

\*11 東名阪のみ

## KDDIの国内の状況

### KDDIグループの沿革

2000年10月、長距離通信の第二電電株式会社 (DDI)、国際通信のKDD株式会社、日本移動通信株式会社 (IDO) の3社合併により発足したKDDI株式会社は、モバイル・固定通信の両事業領域で、M&Aなどを通じて事業基盤の拡充を進めてきました。

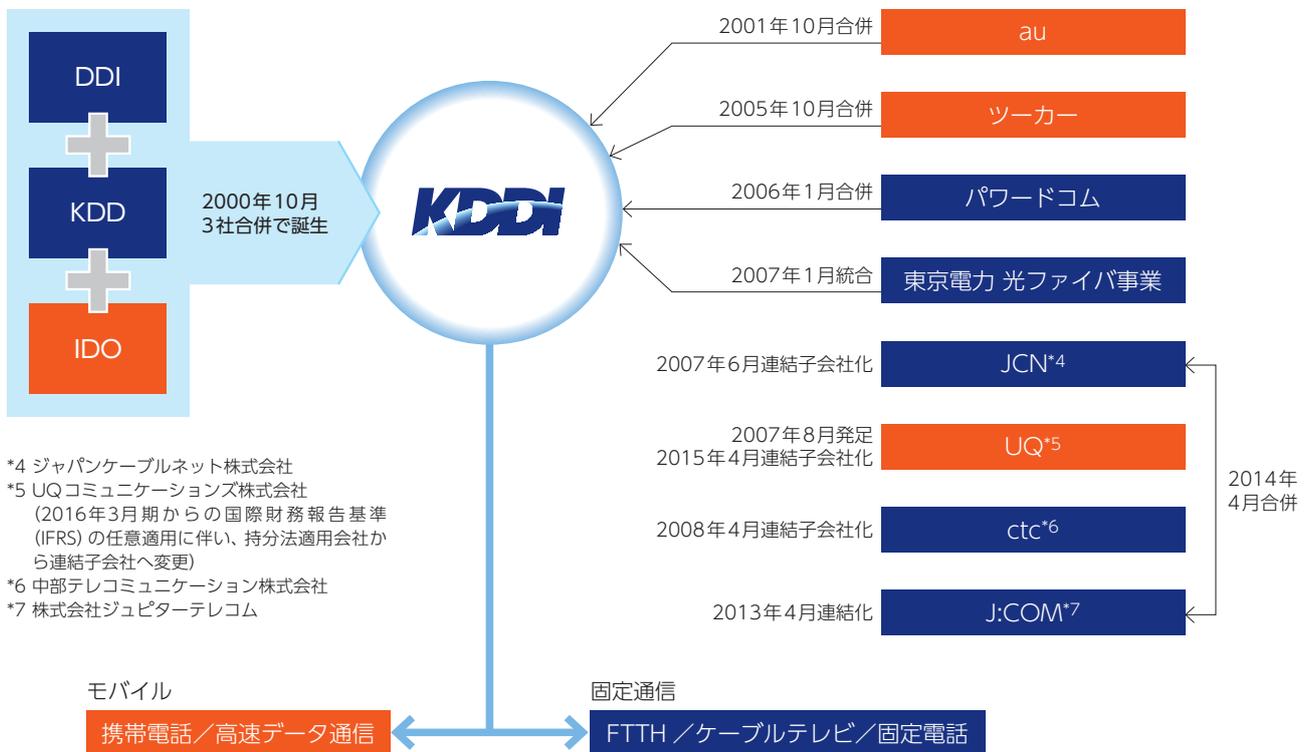
その結果、モバイルでは3G / 4G LTEやWiMAXネットワーク、固定ではFTTHやケーブルテレビなど、さまざまなアクセスラインと、モバイル約6,400万契約\*1および

固定ブロードバンド約880万契約\*2の顧客基盤を確立しており、その優位性を生かして3M戦略\*3を推進しています。

\*1 au + UQの合計 (2016年3月末現在)

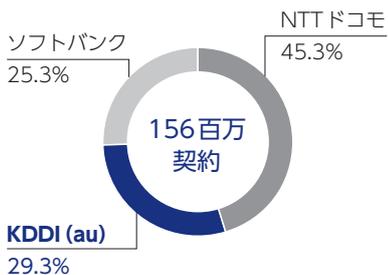
\*2 FTTH + RGU対象世帯数の合計 (2016年3月末現在)

\*3 3Mとは、「マルチネットワーク」「マルチデバイス」「マルチユース」の頭文字。いつでもどこでも最適なネットワークを通じて、スマートフォンやタブレット端末をはじめとするさまざまなデバイス上で、さまざまなコンテンツやサービスをシームレスにお使いいただける環境を整えることを目指したKDDIの成長戦略



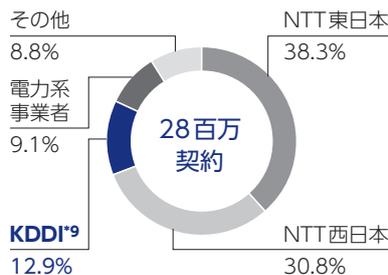
\*4 ジャパンケーブルネット株式会社  
 \*5 UQコミュニケーションズ株式会社  
 (2016年3月期からの国際財務報告基準 (IFRS) の任意適用に伴い、持分法適用会社から連結子会社へ変更)  
 \*6 中部テレコミュニケーション株式会社  
 \*7 株式会社ジュピターテレコム

》モバイル契約数シェア\*8  
 (2016年3月末)



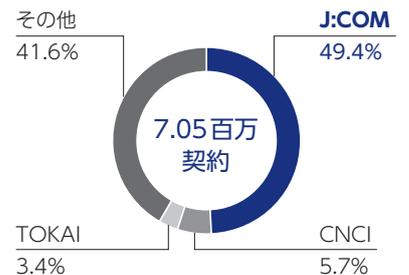
出典：電気通信事業者協会資料を基に当社作成  
 \*8 株式会社NTTドコモ、ソフトバンク株式会社、当社 (au) による3社間のシェア

》FTTH契約数シェア  
 (2016年3月末)



出典：総務省資料を基に当社作成  
 \*9 KDDI + ctc + 沖縄セルラー電話株式会社

》ケーブルテレビ有料多チャンネル契約数シェア (2015年9月末)



出典：放送ジャーナル (2015年12月号) を基に当社作成

## KDDIグループの主要な事業の状況

### ●モバイル

2016年3月末のau携帯電話累計契約数は、前期末比5.6%増の4,591万契約となり、モバイル3社間におけるシェアは29.3%となりました。

このうち、KDDIの連結売上高の約7割を占めるパーソナルセグメントにおいては、スマートフォンの浸透率が58% (LTEに限定すると56%) まで上昇しました。

また、「WiMAX」および「WiMAX 2+ (TD-LTE)」サービスの提供を行うUQにおいても、2016年3月末時点で前期末比89.1%増の1,805万のお客さまにご契約いただいています。さらにUQは、MVNO事業者として2015年10月から「UQ mobile」の提供を開始し、MVNO市場における利用者の裾野拡大に取り組んでいます。

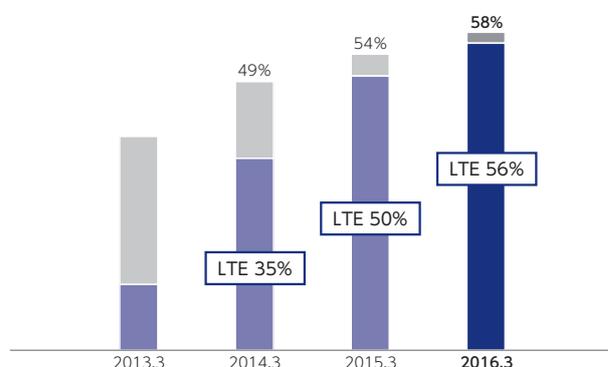
#### >> au累計契約者数\*10の推移 (連結)

(万契約)



\*10 KDDI + 沖縄セルラー電話

#### >> auスマートフォン浸透率\*11の推移 (パーソナル)



■ LTEスマートフォン ■ 3Gスマートフォン

\*11 auスマートフォン÷一般端末 (スマートフォン・フィーチャーフォン (ぶりペイド含む))

### ●固定ブロードバンド

2016年3月末のFTTH累計契約数は、前期末比7.6%増の375万契約となり、市場シェアは12.9%となりました。

ケーブルテレビにおいては、RGU\*12対象世帯数が、前期末比3.5%増の505万世帯となりました。

また、2015年9月末のJ:COMのケーブルテレビ有料多チャンネルサービス契約数シェアは、約5割を占めています。

FTTH・ケーブルテレビともに、auのお客さま基盤とのクロスセルを通じて、顧客基盤のさらなる強化および拡大を続けています。

\*12 RGU (Revenue Generating Units)。収益獲得単位数のこと。各世帯で加入しているケーブルテレビ、高速インターネット接続および電話サービスのそれぞれが1RGUとなる

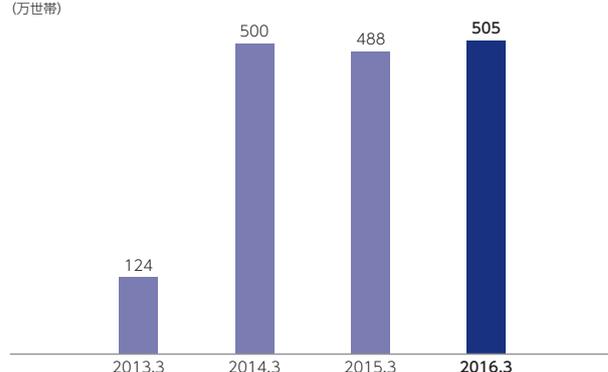
#### >> FTTH累計契約数\*9の推移 (連結)

(万契約)



#### >> RGU対象世帯数\*13の推移

(万世帯)



\*13 2013年3月期はJCNのみ、2014年3月期以降はJ:COM+JCN。2013年12月のJ:COMによるJCN連結化に伴い、2014年3月期については、総加入世帯数の算出方法をJ:COM基準に統一。2015年3月期以降は、「総加入世帯数」から「RGU対象世帯数」へ定義変更。2015年3月期の「総加入世帯数」ベースは505万世帯